

ディスコグラフィー収載

ディスコグラフィー【2015No.32】(HP 収載)

分類：CD

作曲家：アルヴォ・ペルト

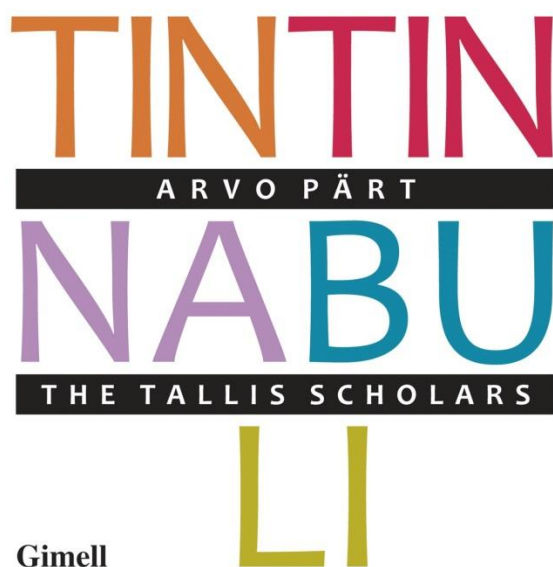
曲名：マニフィカトのための7つのアンティフォナ他

演奏：タリス・スコラーズ

発売：Gimell

No.：CDGIM 049

概要：



ティンティナブリという様式で書かれた、ペルトの合唱作品集で下記が収録されています。このうち、「彼は誰々の息子だった」と「ヌンク・ディミッティス」は演奏会で聴いてきたものです。

[http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?page\\_id=21](http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?page_id=21)

マニフィカトのための7つのアンティフォナ

マニフィカト

彼は誰々の息子だった

ヌンク・ディミッティス

石膏の壺をもつ女

皇帝への年貢

わたしはまことのぶどうの木

トリオディオン

ペルトは生誕 80 年の比較的近年の作曲家ですが、ルネサンス音楽を研究し、その様式に則った曲を作っています。半音階は使用せず、全音階のみで構成され、原則、ソプラノ、アルト、テノール、バスの各パートが 2 名ずつで、アカペラですので音律の選択は融通が利きますが、実際にどのような音律で唄われているかは分かりません。しかしながら聴いたところでは、非常に良く協和したポリフォニーという印象です。

CD の方は大学のカレッジのチャペルで録音されており、実際に大ホールで聴いた印象より、残響は強い印象です。CD 再生では、チャペルの残響は良く再生されているか、ポリフォニーのお互いの協和はどうか、アルトの一人は男性ですのでそのことが分かるかどうか、各パートが 2 名ずつの構成であることが分かるかなど、オーディオ装置のチェックに使いそうです。